

第3期下京区基本計画 令和3年度の取組状況 について

令和4年3月



第3期

下京区基本計画を策定!

「自分ごと、みんなごとの
まちづくり」を一緒に進め
ていきましょう!



このたび、令和3年度から令和7年までの5年間の下京区のまちづくりの指針となる「第3期下京区基本計画」を策定しました。スローガンは「住んでよし、働いてよし、訪れてよし、学んでよし」の下京区。100年先の未来にも誇れる下京区のまちづくりを共に進めていきましょう!

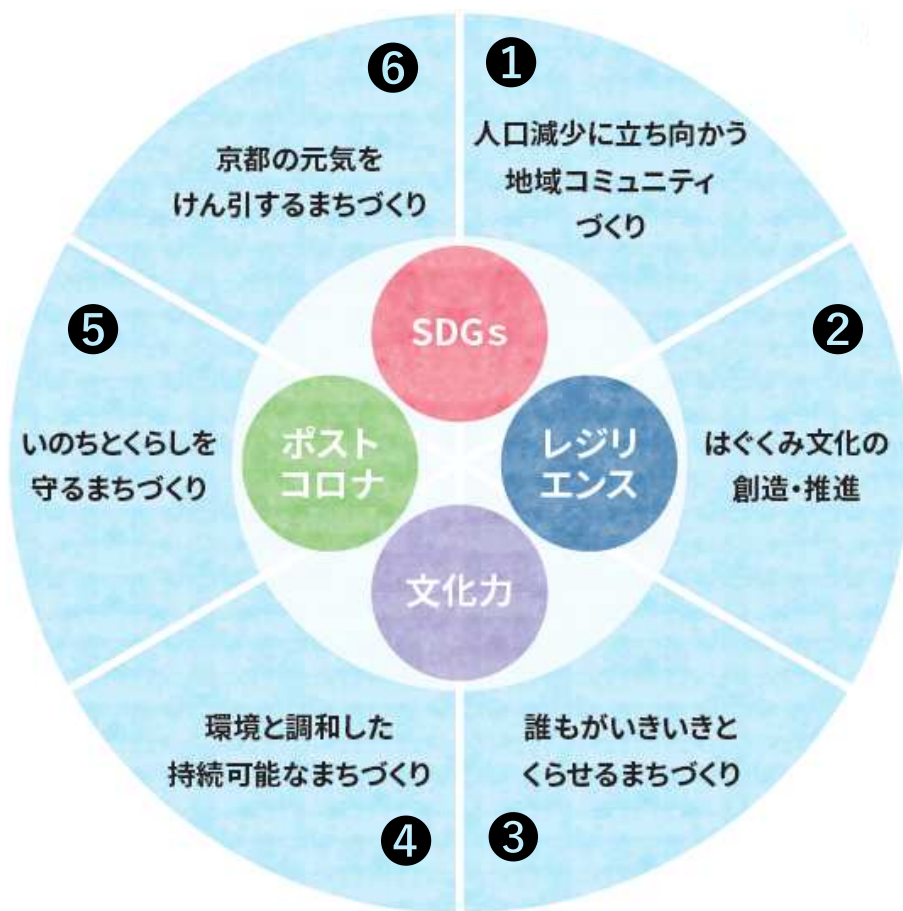
「下京のひびき」令和3年9月15日号より

(参考)計画策定の経過

本計画は、区内の学区や各種団体の代表等からなる「下京区民まちづくり会議」をはじめ同会議の5つのテーマ別部会等での議論や市民意見募集を経て策定しました。

- 下京区民まちづくり会議(令和元年10月～令和3年7月,4回)
- 下京区民まちづくり会議部会(令和元年11月～令和2年3月,3回)
- 市民意見募集(令和3年3～4月):いただいた御意見数246件(155人)

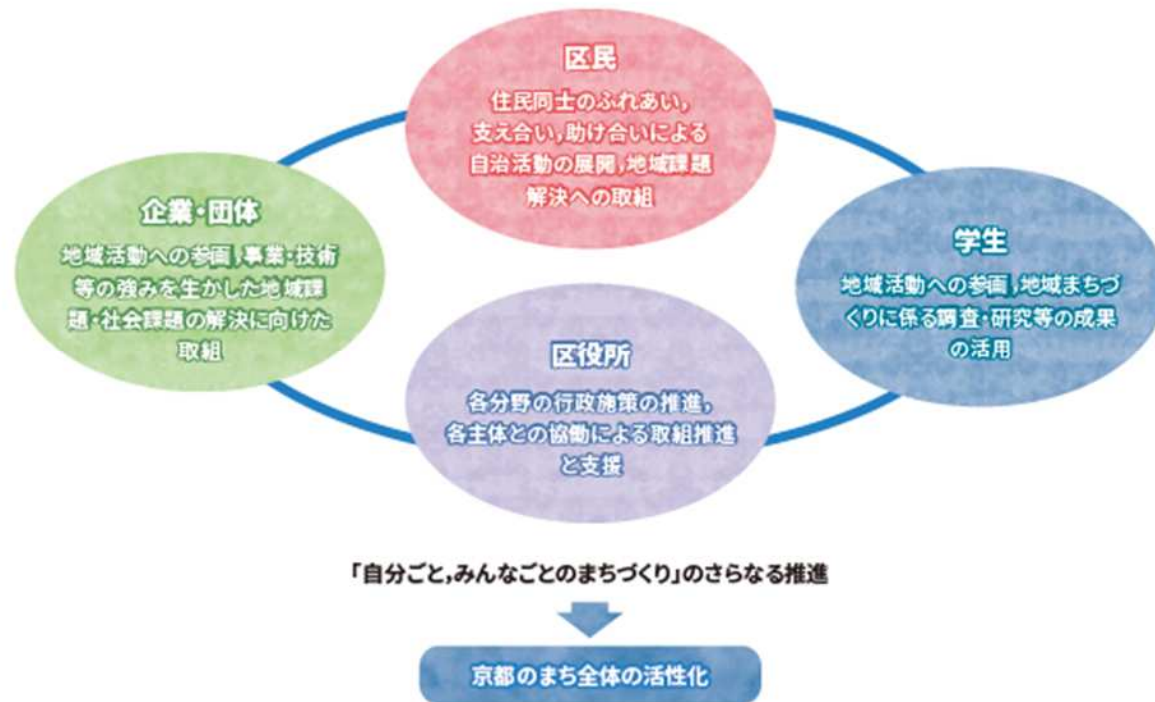
重点戦略



下京区の現状・課題や現下の社会情勢を踏まえ、京都市基本計画に基づき、レジリエンス、SDGs、文化力、ポストコロナを分野横断的に捉え、区民の皆さんとともに進めていくべき政策分野として、**6つの重点戦略**を設定。下京区がめざすまちの姿の実現に向けて、14の「**リーディングプロジェクト**」と94の「**取組例**」の計108の取組を推進します。

計画の推進

区役所、区民、企業、団体、学生等がそれぞれの役割を果たすとともに、各主体が連携・協働して「自分ごと、みんなごとのまちづくり」を進めて、京都のまち全体の活性化に結びつけます。



計画の推進に当たっては、**下京区民まちづくり会議**で計画の進捗状況を報告・確認し、今後の推進施策等について議論します。

第3期下京区基本計画の各戦略に基づく主な取組

戦略1 人口減少に立ち向かう地域コミュニティづくり

地域コミュニティの活性化に向け、多様な担い手による主体的なまちづくりを促進・支援し、自治会・町内会をはじめとする地域団体と、事業者・NPO・行政等が連携して地域課題を解決できるまちをめざします。

リーディングプロジェクト

★地域の事業者や外部(NPO,大学等)の方が町内会活動に参加しやすいしくみづくり

○地域コミュニティ活性化支援施策(スマートフォン体験講座を開催)
ICT技術の地域デバйдの解消を目指し、ソフトバンク社によるスマートフォン体験講座を区役所、尚徳学区、崇仁市営住宅53棟で開催。延べ29人が参加。また、町内会活動へのICTツールの導入も提案した。



★学区における「まちづくり委員会」の設立・活動支援

○地域コミュニティ活性化事業を実施

学区でまちづくり委員会を設立し、防災まちづくり等に取り組む地域を支援。

- ・菊浜学区:福祉・防災まちづくり, 防災まち歩き, 避難所運営など(戦略5で詳述)
- ・有隣学区:防災まちづくり, 避難所運営マニュアルの作成など(戦略5で詳述)
- ・醒泉学区:6月にまちづくり委員会発足。防災まち歩き, 防災マップ及び防災まちづくり計画を作成。

★まちづくりサポート事業「SHIMOGYO+GOOD」による社会・地域課題解決の推進

令和3年度は、下京区基本計画の重点戦略に該当する活動23件採択。環境、子育て支援、防災、地域コミュニティの活性化など、幅広い分野の活動を支援。また、交流会(オンライン)を開催し、採択団体同士の連携につなげた。



推進施策

①まちづくりを担う人づくり

○下京地域情報サイトを開設(各学区, 各種団体等と連携)

11月に「下京地域情報サイト」を開設。23学区全ての個別ページと各種団体(14団体)のページを設置。

また、下京いきいき市民活動センター等と協力し、レポーター養成講座を開催。6名の学生が取材し、地域の魅力を発信するレポート記事を掲載。



推進施策

②持続可能な地域コミュニティづくり

○区長Meet upの開催

10月にしんらん交流館にて開催(オンラインと併用)。20名の参加者(市協・自治連会長)と区役所が、「コロナ危機から学ぶ地域コミュニティ」をテーマに、コロナ期間の工夫を凝らした地域活動の紹介や、コロナ危機を経験して得られた「学び」や「気づき」についての意見交換を行った。



○松原通界限活性活動プロジェクト委員会の取組

誇りある松原通を次世代に引き継ぐため、小学生を対象とした、①「オンライン職人巡りツアー」のWeb配信、②「オンライン松原街歩き」のライブ配信、③「オンライン松原シンポジウム」を開催し、松原通の文化と歴史を発信。



○下京区ふれあい事業

- ・人権講演会→戦略3で詳述
- ・下京まちなかアートギャラリー→戦略6で詳述
- ・グッジョブキッズフェスタin下京→戦略2で詳述

○地域SNSアプリ「ピアッザ」→戦略2で詳述

③社会・地域課題を解決するしくみづくり

○京都中小企業家同友会下京三支部との連携

同会下京三支部との地域連携に関する協定に基づき、それぞれの人材、知識、情報等を活用し、様々な分野で相互に連携・協力して事業を行った。

- ・グッジョブキッズフェスタin下京(戦略2で詳述)
- ・マイボトル推進プロジェクト【SHIMOGYO+GOOD】(戦略4で詳述)
- ・例会(「下京区基本計画と地域企業にできること」をテーマに下京区長が講演)
- ・月1回の昼食会で区役所から情報提供



○七三町内会サポート委員会の取組

自治連合会や町内会への加入者の減少に課題意識を持った七条第三学区自治連が、学区内に増える新築マンションに町内会の設立を働きかける専門委員会を結成し、自治連・町内会の加入率の向上による地域活性化を図る。

令和3年度は2回開催。今後は、戸建て住宅も対象に活動していくこととし、より親しみやすい委員会名称に改称した。



戦略2 はぐくみ文化の創造・推進

地域や支援機関、企業等も含めた全ての関係者が子育ての楽しさ、素晴らしさをともに感じながら、地域ぐるみで子ども・若者・子育て家庭を大切にすることで、安心して子どもを生み育てられる環境づくりによる移住・定住促進、はぐくみ文化の創造・推進を図ります。

リーディングプロジェクト

★団体、企業等との連携により地域ぐるみで子育てを支援する「下京みらい数珠つなぎプロジェクト」の推進

子育て応援情報のウェブサイトに参加団体等の子育てイベント情報を発信するとともに、子育て支援に取り組む団体等との連携に努めた。

10月にウェブサイト上に新たに「知りたい」のコンテンツを作成し、赤ちゃんの抱っこの仕方や沐浴の仕方の動画を掲載。また、保健師、保育士、栄養士、歯科衛生士からの応援メッセージを掲載。これらを周知するチラシを作成し周知した。



★企業・職人等との連携による子ども・若者を対象とした職業体験や歴史講座等の実施

○グッジョブキッズフェスタin下京を開催(ふれあい事業) (京都中小企業家同友会・下京歯科医師会・区内事業者と連携)

子どもたちを対象に伝統産業や芸術関係などのお仕事体験を12月に初開催。11団体がブースを出展。208名の子どもが参加。下京区の魅力を知り、自身が住むまちへの関心を高め、愛着を育むきっかけとなった。

- ・下京歯科医師会: 歯磨きの大切さを学ぶ 等
- ・京都中小企業家同友会: ふすま・障子 張替体験 等



推進施策

①子どもと家庭をオール下京(区民、事業者、行政等)で育む環境づくり

○下京区「はぐくみネットワーク」実行委員会の取組

「子ども・若者の今と未来のために大人として何ができるか」を共に考え、行動する市民ネットワーク。令和3年度は、下京雅小学校や下京中学校、下京青少年活動センター、区役所で子どもや若者を取り巻く課題(「薬物乱用防止」や「青少年の健全育成と地域の非行・犯罪の防止」等)をテーマにしたミニ講座を計4回開催した。



○地域SNSアプリ「ピアッザ」を活用した交流促進

同アプリを運用し、ユーザー同士が子育て情報や地域情報などを自由に交換するとともに、区政情報の発信を図った(ユーザー登録者数1,300名を超える)。

また、11月に第2弾の交流会を開催し、21名の親子が参加。デジタルとリアルとの融合による地域コミュニティの活性化を図った。



推進施策

①子どもと家庭をオール下京(区民, 事業者, 行政等)で育む環境づくり

○オトナリプロジェクト実行委員会の取組

「子育てと仕事の両立」を目指す方をサポートするため、「乳児子育て」等をテーマにした「こどもとはたらく子育て教室」を実施。

また、子育てのノウハウや体験したことをまとめた冊子を区内外に住む子育て中の方々に配布。



②特に支援が必要な子ども・若者・家庭等への切れ目のない支援

○子ども食堂(西本願寺, 東本願寺, 修徳児童館 等)との連携

新しく「子ども食堂」に取り組む団体と連携するとともに、コロナ禍の中、持ち帰り弁当の提供など、感染対策を取りながら実施している状況を情報提供



③子ども・若者がさまざまな機会を与えられ、主体的に学び、育つ環境づくり

○「住み続けられるまちづくり」に向けた多主体協働のまちづくり (七条中学校, 七条・七条第三・西大路学区, 区役所との連携)

七条中学校では、総合学習の授業においてSDGsに取り組んでおり、1年生はそのゴールの1つ「住み続けられるまちづくり」をテーマに、自分たちの地域の課題を探し、解決方法の仮説を立て、検証する探究活動を行った。ワークショップでは、市民協働ファシリテーターがサポートし、「ゴミが多い」「まちに活気がない」「バイクの騒音」等の地域課題が出された。また、検証活動では地域の自治連会長がアドバイスをを行う等、『中学校×地域×区役所』の多主体協働まちづくりのモデルケースとなった。



戦略3 誰もがいきいきとくらせるまちづくり

世代や分野を超えてさまざまな人や団体等が連携し、住み慣れた地域の中で誰もが「笑顔」で自分らしく、生きがいを持ち、健康に安心して暮らし続けることができるとともに、互いに違いを認め合い、支え合う地域社会、人権文化を構築すること等を通じて、都市のレジリエンス向上を図ります。

リーディングプロジェクト

★「ひきこもりを考える講演会」や「家族交流会」等の開催及び個別支援の充実

○地域福祉合同研修会「ひきこもり支援について考える」 (民生児童委員、老人福祉員、区社協関係者、福祉関係機関・団体役職員等と連携)

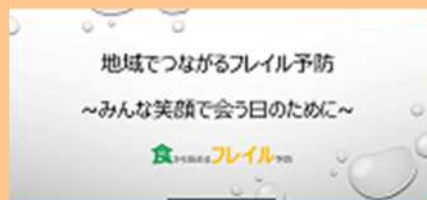
ひきこもりについて区民の理解を深めるための講演会を3年計画で実施。令和3年度は、「ひきこもり支援について」精神科医と支援者からの講演をオンラインで開催(47名が参加)し、後日動画配信した。

★「フレイルと生活習慣病の予防」による「健康長寿のまち・下京」の推進

○下京・みなみ健康まつりを実施(下京歯科医師会)

・コロナ禍でのフレイル予防にちなんだ川柳・私だけの健康法を募集し、優秀作品を「すこやか大賞」として表彰し、表彰式をWeb配信

・フレイル予防の動画をWeb配信
・「健康まつり新聞」発行等により、地域住民の交流と健康づくりの意識を高める機会を提供



○京都中小企業家同友会下京三支部との連携、各種団体等による取組

・がんや生活習慣病の予防や早期発見のため、同友会の会員に対し検(健)診受診率向上及び健康課題の改善に関する啓発(「職場における健康づくり」アンケート)を実施。
・下京区シルバークラブ連合会と協働し、心身のフレイル予防に関するセミナーを実施(令和3年10月、参加者140名)

推進施策

①異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

○人権講演会を開催(ふれあい事業)

12月の「人権月間」に合わせ、一人ひとりが尊重され、自分らしく生きることができる社会づくりを目指し、講演会を開催(105名参加)。

講演会:「言葉の責任 ネットの被害者・加害者にならないために」～命の大切さ、人生の大切さ、あきらめない心～(講師:スマイリーキクチ氏)



○下京こころのふれあいネットワークの取組

(下京民生児童委員会、下京区地域女性連合会、下京保健協議会連合会、下京区シルバークラブ連合会、下京区社会福祉協議会、下京東部・西部医師会と連携)

こころの病や障害についての理解を深め、こころの健康への市民の関心を高めるとともに、地域で生活するこころの病がある市民の方への支援活動を行うための地域組織(ネットワーク)を運営。11月に講演会「ひきこもり支援について考える PartⅡ」を開催するとともに、区役所で作品展示を実施。



戦略3 誰もがいきいきとくらせるまちづくり

推進施策

①異文化や多様な生き方を認め合い、誰一人取り残さない支え合いのまちづくり

○NPO法人クリエイター育成協会の取組

障がいのある利用者の方たちが、今まで培ってきたデザインやプログラミングなどのITスキルを発揮してオリジナル作品と課題制作(絵本)を作成し、展示(11月、ゼスト御池)。優秀な作品は、出版し、市内の保育園や幼稚園などに無償配布した。



②人生100年時代を見据えた健康で心豊かに過ごせ、活躍できるまちづくり

○食育セミナーの開催,食育指導員への活動支援

○オーラルフレイル予防のためのセミナー開催, 歯のひろばの実施 (下京区シルバークラブ連合会, 下京歯科医師会と連携)

「健康長寿のまち・京都食育プラン」に基づいた栄養, 食生活に関する適切な知識及び実践の普及啓発を実施。

食育セミナーを2回。下京区シルバークラブ連合会フレイル予防セミナーにおけるオーラルフレイル予防の講話を開催(参加者140名)。

・グッジョブ! キッズフェスタin下京における「歯のひろば」(戦略2で詳述)

○健康づくりサポーターへの活動支援

○公園体操に取り組む各団体への支援 (各学区シルバークラブ等)

健康づくりの普及啓発等を目的に健康づくりサポーターを養成・支援。また、地域の各団体が積極的に公園体操に取り組めるようサポート。

- ・健康づくりサポーターしもけんズ:梅小路・有隣公園体操 月2回実施
- ・各学区シルバークラブによる公園体操
- ・包括支援センター及び介護予防推進センターによるラジオ体操



戦略4

環境と調和したくらしが根付く持続可能なまちづくり

2050年までの二酸化炭素排出量「正味ゼロ」の目標達成に向け、ごみの出ない循環型のライフスタイル・ビジネスモデル・地域社会への転換、環境問題を解決するイノベーションの促進、生物多様性の保全を学ぶ機会の創出や環境に配慮した実践活動の担い手育成等を通じて、持続可能な循環型社会の実現をめざします。

リーディングプロジェクト

★区内企業によるソーシャルプロダクツの発信支援、区民への利用推奨

○彼方此方屋の取組

区の拠点で古着を回収し、廃棄衣料から出来た園芸用土に加工。ビルの屋上・テラス等で綿花を栽培し、収穫した綿花と反毛との混紡で織布し製品化に取り組んだ。



○使い捨て時代を考える会の取組

子ども連れで参加できる親子企画や農業生産者と消費者の交流、オーガニックマルシェ、家庭料理講習、有機農業セミナー等を実施。延べ1,000人が参加した。



推進施策

①徹底した省エネやごみ減量、脱炭素社会に向けた取組の推進や門掃き、打ち水など、京のまちに息づく生活習慣の継続

○令和3年度京都環境賞奨励賞受賞

(豊園エコ推進委員会とホテル日航プリンセス京都との協働の取組)

環境問題に取り組んでいる同委員会と同ホテルとが協働し、「親子料理教室」を開催。豆腐の製造過程で出た廃材(おから)を使った「パンダ餅」などを作り、食品ロスについて楽しみながら学んだ。また、同ホテルは豊園さくらまつりに参加し、廃材を使った「ホテル特性クッキー」を子どもたちに無料配布した。



○天水バケツプロジェクトの推進

日本の伝統的な雨水利用(天水桶)の発想をもとに、生活に身近な雨樋とバケツを組み合わせ、貯めた雨水を消火用水として利用する。「明日の京都文化遺産プラットフォーム」が取り組む本プロジェクトの趣旨に賛同して、菊浜学区では区民会館前に、また区役所等で設置した。



○エコ学区における取組

環境にやさしいライフスタイルへの転換や省エネ、地域力の向上を目指し、地域ぐるみでエコ活動に取り組んでいる学区を「エコ学区」として、活動を支援。

- ・豊園学区：上述のとおり
- ・修徳学区：児童館でソーラーLEDを使ったランタンでイルミネーション制作をするエコ工作の学習会を実施。

推進施策

①徹底した省エネやごみ減量, 脱炭素社会に向けた取組の推進や
門掃き, 打ち水など, 京のまちに息づく生活習慣の継続

○京都中小企業家同友会下京三支部の取組

プラスチックによる海洋汚染防止, ゴミ削減, 地球温暖化対策, 地域の環境保全の観点から「マイボトルで利用できる給水スポット」を可視化し, 区内の公共施設や事業者が無料で利用できる給水スポットを集約したマップを作成。オリジナルステッカーも制作し, 周知。登録数は30箇所を超える。



○資源物回収の取組

下京エコまちステーションや地域の集団回収, 商業施設などで, 16品目の資源物の回収を進める。

- ・使用済天ぷら油(区役所含む)45拠点
- ・乾電池(区役所含む)6拠点
- ・蛍光管(電気屋21ヶ所含む)25拠点
- ・コミュニティ回収事業174団体



○下京区社会福祉協議会の取組

下京総合福祉センターの花壇を整備し, “プチ農園×福祉”ボランティア講座を実施。また, 菊浜学区と稚松学区でのプチ農園の実施や家庭菜園づくりによる地域の見守り力アップなど, 人と人がつながり, 誰もが安心して住み, 活躍できる居場所づくりを行った。



○(株)夢びとの取組

コンポストの回収拠点を区内に設置し, ごみ削減を推進するとともに, 堆肥を連携農家の畑に散布したり, 区内の緑化に活用した。また, ごみをきっかけにつながるコミュニティを運営し, SDGs教育の実施や地域企業, 自然(田舎)との接点をつくった。



戦略5 危機にしなやかに対応し「いのちとくらし」を守るまちづくり

区民・事業者・行政等の一層の連携強化、一人一人の防災や減災に対する意識の啓発等による「地域防災力」の向上に取り組み、災害に強いまちづくりを推進します。また、防犯・防火活動、交通安全対策を継続して実施し、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安心安全にくらせるまちづくりを推進します。

リーディングプロジェクト

★工夫を凝らした防災啓発の推進(楽しみながら学べる防災訓練プログラム(体験型防災ゲーム)、防災・福祉まち歩き会、減災カフェ、避難所運営ゲームなど)

○菊浜まちづくり推進委員会の取組

昨年度制作した「避難所運営マニュアル」を基に、コロナ禍における災害時の避難所運営訓練を実施し、訓練と反省を繰り返しながら同マニュアルを改定。また、「防災・福祉まち歩き」を実施し、地域防災力の向上を図った。



○有隣学区まちづくり委員会

学区の資源(学区内外の人的ネットワーク、各町内の防災の取組、学区が独自に作成する要支援者リスト、防災マップ等の情報リソース等)を活かして、学区の実情に適った避難所運営の仕組みを作り上げた。



推進施策

①レジリエントな地域づくりに向けたオール下京(区民、事業者、行政等)で取り組む地域防災力の向上

○ハザードマップ、マイタイムライン、下京区民水災害対応マニュアル

区役所が地域の防災訓練に出席し、災害対策基本法の改正点を説明。併せて、ハザードマップ、マイタイムラインを配布し、区民へ広く周知した。ハザードマップ、マイ・タイムライン、下京区民水災害マニュアルを区役所防災展示ケースでも展示し、相談窓口での配布や区役所HPに掲載。

○宿泊施設との連携協定(菊浜学区連合会)

菊浜連合会が学区の避難所の収容人数の少なさ等の課題を解決するため、学区内のホテルとの災害時の一時避難の協定締結を目指し働きかけ、令和2年7月に町家ホテル京都高瀬川別邸((株)桜花爛漫)と協定を締結。令和3年度「京都らしい宿泊施設表彰」受賞。

○学区防災訓練

新型コロナウイルス感染拡大により、多くの学区で中止となったが、植柳、七条第三、有隣、豊園、修徳、菊浜、七条学区において、自主防災会を中心とした学区防災訓練を実施。マンホールトイレの設営、避難所運営資機材の使用方法や避難経路の確認など、住民間で情報共有が図られた。



推進施策

②下京にくらす人、働く人、訪れる人、学ぶ人、誰もが安心・安全にくらせるまちづくりの推進

○安心安全ネット継続応援事業を推進

学区において実施される防犯、防災、交通安全、子ども見守り活動等の取組に対し事業費の一部を補助する事業で、令和3年度は4学区を支援。

○防犯漫画、動画を作成

令和2年度に、漫画や動画を通じて、区民に防犯について学んでもらい、防犯意識を高めてもらうことを目的に、京都市立芸術大学漫才創意部(漫画研究部)の学生の協力のもと4コマ漫画を7種類作成。また、防犯を呼びかける動画も作成した。

令和3年度は、「下京のひびき」や動画情報館に掲載し、周知に取り組んだ。

作成した4コマ漫画

- ・戸締り
- ・自転車盗
- ・ながらパトロール
- ・還付金詐欺
- ・フィッシング詐欺
- ・暗い夜道に注意
- ・感染症対策



○青色防犯パトロールを実施

(地域、下京警察署、区役所で連携)

偶数月に3者合同で青色パトランプを搭載した車両で区内の安全パトロールを実施。

また、毎月14日に下京区役所単独でパトロールを行い、合わせて京都タワーをスカイブルーにライトアップ及び京都駅自由通路で啓発画像を掲出した。



○各季全国交通安全・交通事故防止運動行事の開催

(下京区交通対策協議会、下京警察署、下京区役所で連携)

官民一体となり、各季全国安全運動期間等に啓発イベントの開催や市域一斉啓発活動日に街頭啓発活動などを実施。

- ・各季全国交通安全・交通事故防止運動行事 5回開催
(京都中央郵便局、西七条保育園等)
- ・市域一斉啓発活動 3回開催(区内の主要交差点)



戦略6 京都の元気をけん引するまちづくり

起業家やクリエイティブな人々・企業を呼び込み、文化と経済の融合、異分野との交流によるイノベーションの創出、スタートアップ・エコシステムの形成を加速させるとともに、地域文化の継承・発展につながる観光推進等により、持続可能な地域経済の好循環を生み出し、京都の活力をけん引する創造的なまちづくりを進めます。

リーディングプロジェクト

推進施策

★下京区の東西エリアが交流・融合する「クリエイティブエリア」の創出

①世界に羽ばたく起業家を支援する「スタートアップの聖地・下京」の推進

○「梅小路コモンズ」及び「梅小路まちづくりラボ」による、JR梅小路西駅エリアの「クリエイティブタウン化」の推進

地域の事業者や起業家を中心とした協議体「梅小路コモンズ」の事業体となる「(株)梅小路まちづくりラボ」。12月の学習交流会では、京都産業大学の学生が調査・企画した梅小路エリアのまちづくりのアイデアを提案。2月の学習交流会では、下京区で先駆的に「モノづくり」を行うゲストによるトークセッションを開催。



推進施策

②京都芸大移転を生かした芸術活動と地域・生活文化の融合

○下京まちなかアートギャラリーを実施(ふれあい事業)

3月に、区役所、商店街、ホテル、町家などの区内各所に市立芸術大学関係者、小中学校の児童・生徒等の作品を展示(約370点を区内10箇所)するとともに、スタンプラリーを開催。文化芸術を基軸としたまちづくりを推進するとともに、京都芸大の移転に向けた機運醸成を図った。



③地域と調和した京都駅、梅小路周辺のさらなるにぎわい創出と回遊性向上

○下京・京都駅前サマーフェスタ

(西本願寺、東本願寺、京都駅ビル開発㈱、下京区役所)

まちの賑わいづくりを目的に8月に開催。デジタルスタンプラリーや本願寺書院特別拝観ツアーなど、各関係機関で催しが実施された。(コロナのため一部催しは中止)



○梅小路みんながつながるプロジェクト

(JR西日本ほか54団体が連携)

梅小路エリアの回遊性の向上・賑わいづくりを目的に、エリア紹介冊子の作成、梅小路ハイラインの開催、合同清掃活動、京都・梅小路フォトコンテスト等を実施。

推進施策

③地域と調和した京都駅、梅小路周辺のさらなるにぎわい創出と回遊性向上

○梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会の取組

梅小路京都西駅・七条通の賑わいづくりや京都の食文化の魅力向上を目的に活動。令和3年度は同エリアの清掃活動を3月、8月、11月に実施。また、周辺飲食店等情報誌「京都「梅小路」よりみち案内」を発行。

○東本願寺前における市民緑地整備に向けた機運醸成事業の実施

地域活性化と京都駅から東本願寺界限への回遊性の向上を目指し、東本願寺前「市民緑地」を整備するにあたり、地域住民、商店街及び東本願寺関係者などから整備後の利活用方法を定めるルール及び運用体制等の検討、意見聴取の場を設ける等の機運醸成の取組を進めた。

- ・関係者会議 全体会議2回、分科会2回
- ・エフエム京都ラジオによる市民緑地の周知
- ・おひがしさん門前未来プロジェクトと連携した市民緑地の周知



③地域と調和した京都駅、梅小路周辺のさらなるにぎわい創出と回遊性向上

○しもぎょう伝燈祭(ふれあい事業)
(23学区等と連携)

下京区内23学区の各地域の皆さんに希望や願いを込めてメッセージやイラスト等を「シェード(行灯)」に描いていただき、その「シェード(行灯)」にろうそくを灯した画像を下京区のホームページ内の「下京地域情報サイト」に掲載。

区民の皆さんに同サイトを御覧いただき、「灯り」の力が生み出す、人の温もりや人と人との絆を感じていただく。

④地域コミュニティの核となる持続可能な商店街づくり

○西七繁栄会の取組

西七条のシンボルでもある「七条えんま堂」を中心に、商店街を含めた地域の賑わいづくり・活性化、地域の方々がつながるコミュニティの場づくりとして「七条えんま堂まつり」を11月に初開催。龍谷大学の学生が主体となり、地域企業等とも連携を図った。

